

## 要点『日本文化原論永続思想主体性学』

### 1)倫理学概論

#### 1-1 既成と新設

A市に在住していたaさんは、B市に引っ越しをすることになった。B市においてゴミの出し方が決まっている。まずはこれに従い既成の方式について身体的な因果を通し方法の有用性や不足点や改良点を発見し、既成の方式の理解と新設的な提案を示し利害関係者の利益が増すと見られれば方式の変化へ進む。独りよがりの我儘で、やりもせず文句をつけ妙な露出狂の如き歪な態度に及ぶと非社会的な性格を生む。

既成と新設の方式、既成の理解、有用性と改良点、利害関係の範囲、利益の増進、既成からの変化、頭脳的理解、身体的因果と実感、皆の利益の広がり、精神の良質、健全な頭脳性と身体性と精神性の相関、

#### 1-2 保守と革新

「保守と革新」という社会政治思想についても頭脳的な理解に留まらず、具象的な現象を通し抽象概念の本質を掴み、皮膚感覚の因果と実感を得て概念の意味内容の理解度が進み言葉の理解と活用の適正に向かう。頭と身体と精神を経る活動法則に変わりづらい人間の健全な姿が浮かぶ。保守と革新、頭と身体と精神を経る活動法則、

#### 1-3 制約と自由

「表現の自由」という理念を声高に主張される報道機関等という存在が出現する。弱い立場が強い立場に押しつぶされぬように一定の下限的な人権を守る意識には崇高な精神性が映る。多くの人々の利益に通じる表現者として肯定と尊敬が進む。一過的な虫食い症の暴走的な表現の自由を図り大金を荒稼ぎする性質の強い事象と分類される。確たる理念や世界観を整え良好な利益に連なる確信をもって制約基準と固まり個々の表現の自由に至り健全な精神による内外性と自由を求める態度と解される。

#### 1-4 言葉の多産と分化の進行及び芯の導出と稼働の適正

各種各様の言葉や概念が多産され分化性が広がり行き過ぎに混乱的な言葉の拡散を招き人間や生態の根源や根幹があやふや化して不健全な性質と現象を生む。芯となる言葉や概念を抽出し言葉と稼働の健全な習慣を持って精神の良質を存続させる。哲学や倫理道德という言葉の違いに妙に神経質になる事に有意義性が映るか。細部に偏し根源や根幹と全体像が歪む体系観に及ぶ事のなき芯や土台の観念と体系の盤石へ発想が向けられる。原初的な生態概念からの組み立てにより主体性や領域観の芯や基軸の明瞭を遂げる。憲法という国家の主体と概念化に応用される。

#### 1-5 哲学と科学と技術

創造法則性の型枠として「哲学と科学と技術の相関と習慣」の観念が産まれる。哲学と倫理や道德は同義語的な性格を見る。概念の範囲や幅は（哲学<倫理<道德）となり具象と抽象の質感や配置と相関を生む。

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 静的     | あるべき              |
| 動的     | 哲学、倫理、道德、欲求、意図、価値 |
| あるがまま  | 動静                |
| 科学、事実、 | する、技術、施策、作為、      |

#### 1-6 動静概念と規則性

精神と身体と観念の相関と習慣という人間の根源や根幹の観点から生命観や人間性の芯を生み、社会観と自然観と生態像等と広がる基礎と応用の制御を図る法則性が導出される。動静概念と規則性といった変わりづらい人間の精神性を反映した習慣や活動の基本原理の様式を土台的枠組みに有し中味と配置を起こし持続的な習慣の良質を実現する。

#### 1-7 人間性

以上のように、「既成と新設の相関性、頭脳性と身体性と精神性の相関性、保守と革新、表現の自由、言葉の多産や分化、芯と体系の歪性、適正な根源と基軸と全体性の導出、動静概念と規則性」といった各観点と文脈を生み人間性や社会性の適正を伺い作る道筋が現れる。社会関係における基礎的な道理と納得と共感を生み変わりづらい人間と社会生活の原理が

精査される。個々の正負の体験と反省と学びの末に「倫理観」等という抽象概念の中味と解釈に成熟を遂げる。

### 健全な人間性の原理

|            |                                  |
|------------|----------------------------------|
| 静的<br>動的   | 精神性の良質を表す概念                      |
| 頭脳性<br>身体性 | 動静<br>精神と頭脳と身体の相関性を通した<br>精神の健全性 |

|                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 静的<br>動的             | 精神や感性の健全性             |
| 抽象概念<br>準抽象概念<br>具象性 | 動静<br>自他との良好な精神や感性の出現 |

|                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 静的<br>動的             | 生滅不可分性<br>生の導出は滅を招く |
| 抽象概念<br>準抽象概念<br>具象性 | 動静<br>最良的生の導出       |

### 1-8 思想・世界観

人間の健全な精神性の表れとなって思想や世界観を生む。倫理や道徳や哲学が稼働し産出性を齎せる。思想や世界観は人間の内包的な要素と人間の外側の構図を想定し両面を含む自他の相関図と及び静的領域観や体系観と動態性を含む構図となり生命観の宿る姿が伝わる。あるべき人間と生態の様子を描きだし概念と可視化し多くの人々との共有性に及んで実際性の力が増す。

## 1-9 永続思想（真理の探究と最良の世界観）

人間や生態の完璧的な構図はどうあるべきか。真理を探究する精神が産まれる。絶対不変の正義や価値の最上性を問い試行錯誤を重ね確かな絶対性の基準を掴みたい等という根源欲求を生む。普遍的な不変の基準を求める習慣を内蔵し高みある人間や生態を遂げる力が起こり自他との同一的な基準と広がり各種対立の出現と調和を遂げる正当性の根拠と作用する。確かな人間や生態の価値観を求める哲学文化の営みが存続し歪性に外れぬ良好な根を宿し続ける人間性と生態系の軌道が続く。このような精神や欲求が萎むほどに一過的な利益に偏り即効的な因果と現象の割合で支配され物質的効用の強まる物性が進む。拝金主義に固まり金さえあれば何もかも手に入る意識を常識とする世界が拡大する。行き着く先は軍事力の増大を図り財や生命を支配する態度を招く。過剰な資本主義の発達や戦争やテロ等という破壊性が予測される。病理の深まりと広がりへの対処と予防の発想を生み健全な心身と観念の相関と習慣を模索し生態の根源且つ根幹的良質の見解を引き出し土台的な適正を基に社会性や自然観を広げ良好な生態系の存続を求める方向感やビジョンに集約される。確かな人間像や生態像を問い言葉や概念や領域観と導出し多くの人々の間で共有される同一価値の認識へ及び歪性に対する過不足の評価に統制が進み有効な対策に連ねる創造法則を実現する。長期性の利益への関心と探求の創造が重要な配置を占める。いつの時代にも変わりづらい確かな根源且つ基軸と全体性の体系観が望まれる。思想や世界観を作る有意義性を遂げる。「永続思想」という形が産み出される。

|                             |                                      |
|-----------------------------|--------------------------------------|
| <div>静的</div> <div>動的</div> | 普遍的な不変性<br>人間像・生態像<br>( 根源且つ根幹と全体性 ) |
|                             | 動静<br>生態の調和と永続                       |